

群 教 セ	G09 - 03
	令 2.275 集
	英語－高

高校英語における論理的・批判的思考を伴って 意見や考えを表現できる生徒の育成

－思考を活性化するミニ・ディベートと

可視化するロジック・チャートを活用して－

特別研修員 大久保 泰希

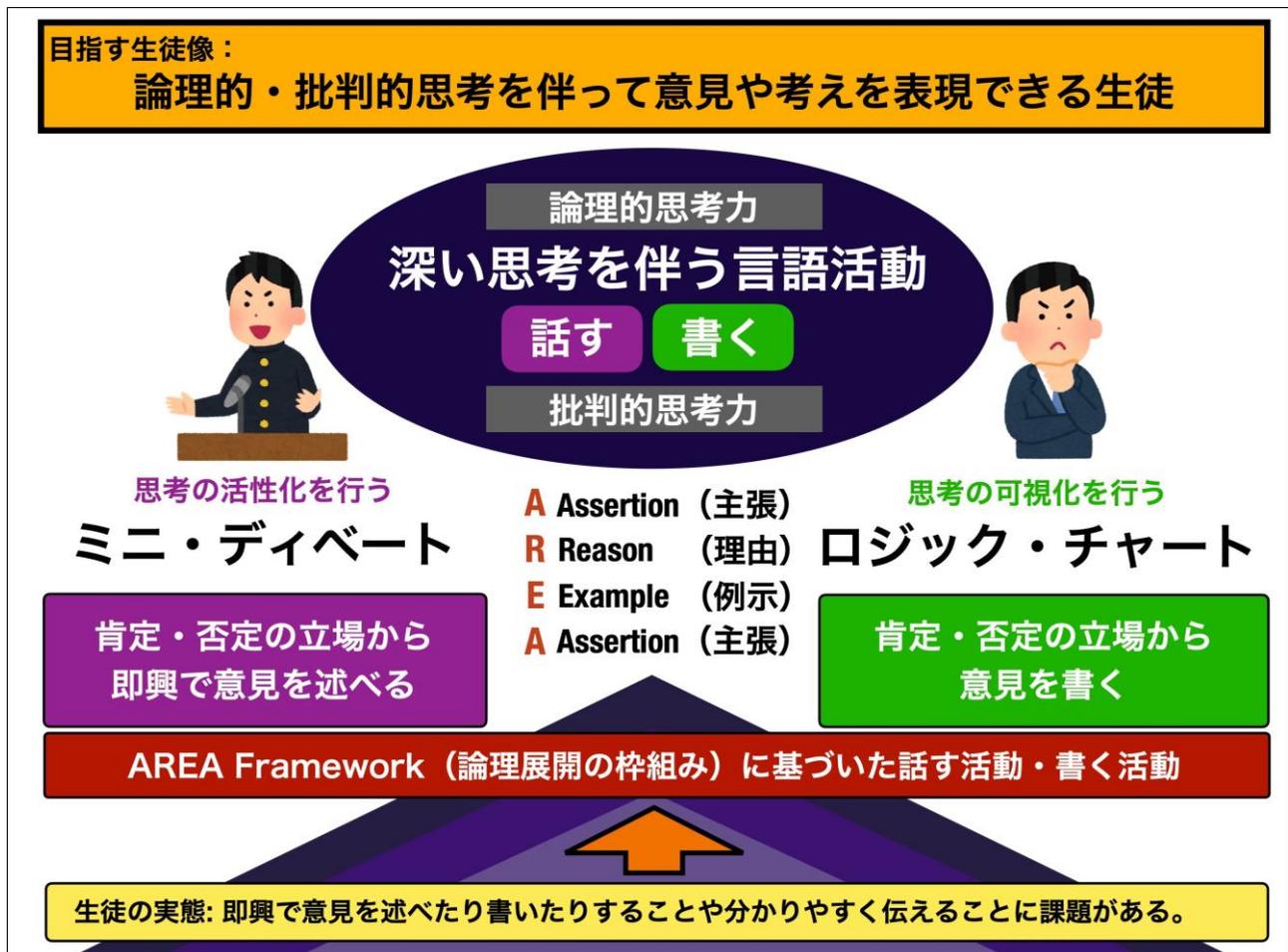
I 研究テーマ設定の理由

「高等学校学習指導要領」（平成 30 年告示）における外国語科の目標は、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することである。そのため、既習の知識・技能を目的・場面・状況に応じて活用できるように、授業における言語活動を工夫することが求められる。また、生徒自らの意見や考えを引き出せるように、題材を身近な事象と関連させ、生徒が「自分事」として考える機会を与える必要がある。

言語活動において自分の意見や考えを分かりやすく相手に伝えるためには、確かな知識の定着に加え、論理的・批判的思考の枠組みの理解が必要となる。そこで、日頃の授業で意見や考えを表現する機会を確保し、論理的・批判的な思考を伴う高度な言語活動を段階的に設定することが有効であると考えた。深い思考を促すためには、ミニ・ディベートにおいて肯定・否定両方の立場から意見を陳述させたり、ロジック・チャートを活用して論理構成を可視化し整理させたりすることが有効であると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

深い思考を伴う言語活動のためには、*AREA Framework という論理的思考の枠組みの理解を前提とする。また、自らの意見や考えを論理的・批判的に表現できるようになるためには、題材について深く考え思考を整理した上で、表現する場面が必要である。そこで、以下の二つの手立てを用いて授業を行う。

手立て1 思考を活性化させるミニ・ディベート

AREA Framework に基づいて、肯定・否定両方の立場から意見を述べさせる。話す時間を短く区切ることによって即興で意見を形成させ、論理的に意見を陳述させる。批判的な思考を伴った肯定・否定両方の意見陳述に加え、論理的に他者の意見を要約する機会を設けることで思考を活性化させる。

手立て2 思考を可視化させるロジック・チャート

ミニ・ディベートで交わした意見を整理し、ロジック・チャートに記述させる。手立て1と同様に、AREA Framework を意識させながら肯定・否定の意見を記述させ、内容について生徒同士で気付いたことや質問を記入させる。友人から受けた質問を踏まえて、自分の本音を肯定・否定どちらかの立場から英語で書かせることで思考を可視化させる。

*AREA Framework とは、主張(Assertion)→理由(Reason)→具体例(Example)→主張(Assertion)という論理展開の枠組みである。

III 研究のまとめ

1 成果

- ミニ・ディベートを通じて、肯定・否定両方の立場から意見を即興で陳述させることで、生徒の思考を活性化させることができた。授業後に生徒へアンケートを実施したところ、95%の生徒が「ミニ・ディベートで即興で話す力を伸ばすことができた」と回答した。また、「他者の意見を要約する活動を通じて、自分とは異なる視点を得ると同時に意見をまとめる力がついた」という回答も見られた。肯定・否定両方の立場から意見を即興で述べるという活動は、内容や言語に関する気付きを促す上で有効に働き、多面的・多角的な視点から意見を書く活動へのつなぎの活動として機能した。
- ロジック・チャートを活用して、論理展開を意識させながら肯定・否定両方から意見を書かせることで、生徒は思考を整理することができた。アンケートでは、「AREA Framework に基づいて英作文をすることで、視覚的に情報をまとめながら論理的な文章を書くことができた」という回答が得られた。また、友人の意見について質問を記入するという活動を行ったことで、「肯定・否定両方の立場からの多面的・多角的な視点を学び取り、読み手を意識した分かりやすい論理展開を心掛けてまとめた英文を書くことができた」という回答もあった。質問されたことに対する説明を考える中で、自分の考えや意見に対して、批判的な思考が働いた様子が読み取れた。

2 課題

- 深い思考を引き出すためには、題材を設定する際に、その背景となる知識と言語活動のための語彙・文法の理解を十分に確かめ、生徒が活動にスムーズに入ることができるような支援をしておく必要がある。ミニ・ディベートにおいて活発な議論を促すためには、生徒の既習知識と題材に関する背景知識がつながるように、テーマを自分事として捉えさせる工夫をさらに図るべきである。
- ペアやグループによる話したり書いたりする言語活動では、全ての生徒を一律に観察し、評価することは難しい。しかし、内容面と言語面に関する気付きを促し、生徒の表現力を豊かにするためには、ミニ・ディベートやロジック・チャートを活用した継続的な指導を行い、その都度十分なフィードバックを与える必要がある。深い思考を伴う言語活動においては、生徒自身が英語力向上を実感できるようなフィードバックの機会を設けて、振り返りのポイントや評価基準を示し、個人での振り返りや他者との振り返りを充実させる必要がある。

実践例

1 単元名 「Lesson 8 “One Pen Can Change the World”」 (第1学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、世界中の子供たちが置かれている状況や、マララ・ユウサフザイさんが命をかけて伝えた女子教育の重要性を扱っている。マララさんの生い立ちや主張を理解することで、教育の機会均等の重要性についての議論につなげることができる。題材と時事問題を関連させることで、提示された資料と他者の意見や考えを批判的に捉え、自分の意見や考えを論理的に陳述することができる。さらに、世界の教育事情を踏まえて、今後どのように学習に取り組むべきか、なぜ学習するのかを生徒に考えさせ、議論を深めることができ、本単元を学習する価値は大きい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	ア 既習の語句や表現を用いることで情報や考えを積極的に伝えることができるようにする。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)	
	イ 世界中の子供たちを取り巻く状況と教育の重要性に関する英文を読み、意見や考えを論理的・批判的に表現できるようにする。 (外国語表現の能力)	
	ウ 女性の権利を守るために、マララさんが訴えている内容を読み取ることができるようにする。 (外国語理解の能力)	
	エ ディスコースマーカーを効果的に用いて情報を整理しながら、ペアやグループでのやり取りを円滑に行うことができるようにする。 (言語や文化についての知識・理解)	
評価 規準	(1)既習の語句や表現を用いることで情報や考えを積極的に伝えようとしている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)	
	(2)世界中の子供たちを取り巻く状況と教育の重要性に関する英文を読み、意見や考えを論理的・批判的に表現している。 (外国語表現の能力)	
	(3)女性の権利を守るために、マララさんが訴えている内容を理解している。 (外国語理解の能力)	
	(4)ディスコースマーカーを効果的に用いて情報を整理しながら、ペアやグループでのやり取りを円滑に行っている。 (言語や文化についての知識・理解)	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・世界の子供たちを取り巻く教育状況に関する資料から必要な情報を読み取り、その現状について記述したり、意見を述べたりする。
追究する	第2～5時	・教科書の情報を読み取り、世界の子供たちの教育状況とそれに関連する社会問題について理解する。 ・世界の子供たちの教育状況とそれに関連する社会問題について、自分の言葉を用いて簡潔に表現する。
まとめる	第6時	・世界中の子供たちを取り巻く状況と教育の重要性に関する資料を基に、日本の教育問題の理解を深める。 ・「日本政府は国立大学の学費を無償化すべきだ」というテーマに関して、肯定・否定両方の意見を論理的・批判的に表現する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画のうち第6時に当たる。教科書題材に関連したテーマについて、意見や考えを論理的・批判的に述べることを目標として、次のように手立てを具体化した。

手立て1 「日本政府は国立大学の学費を無償化すべきだ」というテーマについて、即興で意見や考えを伝え、思考を活性化させるミニ・ディベート

AREA Framework に基づいて、肯定・否定両方の立場から即興で論理的に意見を述べさせる三人一組のグループを組み「肯定(1分)→肯定まとめ(45秒)→否定(1分)」の順に意見陳述させる。この流れを3ラウンド行うことで、全員の生徒がそれぞれの立場から即興で意見を陳述し、思考を活性化させる。

手立て2 手立て1のテーマに関して肯定・否定両方の立場から意見や考えを整理し、思考を可視化させるロジック・チャート

ミニ・ディベートで交わされた意見を基に、自分の意見を肯定・否定両方の立場からロジック・チャートに整理させる。また、記述した内容に関して生徒相互に疑問点を挙げて記入させる。友人からの質問を受けた後、授業後に肯定・否定どちらかの立場から自分の本音を英語で書かせる。

4 授業の実際

(1)ブレインストーミング

本単元では、マララ・ユウサフザイさんのスピーチを通じて教育の重要性を学んだ。本時の導入では、日本の教育問題をブレインストーミングで取り上げ、日本政府が国家予算のうち教育費をどれくらい支出しているか、またOECD加盟国はどれくらいの教育費を投じているかを図や表を示しながら、生徒は世界各国は教育にどれくらいの予算を投じているかを考えた。次に、大学に4年間通うための授業料はどれくらいの費用がかかるのかを示す表を提示することで、生徒は日本の家庭は教育にかかる多額の費用を負担していることを認識した。そこで「日本政府は国立大学の学費を無償化すべきだ」というテーマを提示し、このことについて意見や考えを論理的・批判的に述べることを本時の目標だと伝えた。さらに、論理的に意見を述べるために、AREA Framework（図1）に基づいて意見を展開することが大切であることを示した。

A	主張	I think ...
R	理由	That's because The reason is that ...
E	例示	For example, ...
A	まとめ	Therefore,

図1 AREA Frameworkのスライド

(2) ミニ・ディベート

上記のテーマに関して、肯定・否定両方の意見を即興で述べる活動に取り組んだ。生徒は3分間で意見を準備した後、三人一組のグループを組み、肯定意見陳述（1分）→肯定意見のまとめ（45秒）→否定意見陳述（1分）の流れで意見を述べた。これを3ラウンド行うことで、それぞれの立場からテーマについて意見を多面的に考え出した（図2・3）。またラウンドごとに、論理展開を示す接続表現（ディスコースマーカー）の使い方を工夫するようフィードバックを与え、簡潔で分かりやすい意見陳述ができるよう論理展開を意識させた。ラウンドを追うごとに生徒の発話量が増え、意見が活発に交わされた。3ラウンド終了後、生徒を指名し肯定・否定の立場から意見を発表させ、論理展開についてフィードバックを与えた（図4）。

	Student 1	Student 2	Student 3
1st Round	肯定 1min	肯定まとめ 45 sec	否定 1min
2nd Round	否定 1min	肯定 1min	肯定まとめ 45 sec
3rd Round	肯定まとめ 45 sec	否定 1min	肯定 1min

図2 ミニ・ディベートの手順



図3 ミニ・ディベートの様子



図4 発表の様子

(3) ロジック・チャート

ミニ・ディベートで交わされた意見や考えを参考に、ロジック・チャートを活用して同様のテーマについて意見を記述した。肯定意見記述（3分）→肯定意見に対する質問記述（2分）→否定意見記述（3分）→否定意見に対する質問記述（2分）という流れで行い、質問を記入する際には、それぞれ隣の席の生徒同士で用紙を交換した（次ページ図5）。

質問を記入する際、限られた時間で効率的に質問を考えることができるように、英語だけでなく日本語の使用も認めた。さらに、SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）事業の一貫で、1学年の全生徒が取り組む課題研究の活動で学んだ問いの立て方を提示し、意見や考えを深めるための効果的な質問を検討させた。質問は日本語で記述することを認めたため、具体的な質問が多く見られた。

意見と質問を記述した後、代表生徒のロジック・チャートをタブレット端末で記録し、プロジェクタで投影しながらフィードバックを与えた。AREA Frameworkに基づいて、論理的・批判的に意見陳述が展開できているかをクラス全体で検討した。終末の活動として、テーマ内容と論理構成を再検討し、肯定・否定両方の立場から主張を論理的に展開する方法について共通認識を図った。次回の授業へ向け、テーマに関する自分の本音を肯定・否定のどちらかの立場で再度書くことを課した。

Affirmative Opinion

AREA	Ideas and Opinions	Questions and Notes
A (Assertion)	I disagree with this idea.	
R (Reason)	That's' because <u>if Japanese government do that, more high school students want to enter national universities than now.</u>	If the government doesn't do so, don't they want to go to university?
E (Examples)	For example, <u>if more students want to go there, I have to study hard more and more.</u> Maybe, I can't pass the university exams because of the large number of students who want to go.	Is it nice for you or university?
A (Assertion)	Therefore I think Japanese government don't have to provide their education for free.	

図5 生徒のロジック・チャート記入例（抜粋）

5 考察

(1) ミニ・ディベート

最初は即興で意見を述べることにためらう様子が見られたが、ラウンドを追うごとに生徒の発話量が増えていき議論が活発になった。授業後のアンケートによると、95%の生徒がミニ・ディベートを通じて「即興で話す力がつく」と感じていることが分かった。他にも、短い準備時間で肯定・否定両方の立場から論理的に述べるという体験を通じて、生徒は自らの思考を深めていたことが分かる回答も得られた。即興で話すということに難しさを感じる生徒もいたが、既習の知識を使って英語で意見を交わし合うことに喜びを感じる生徒がいることも分かった。また、友人の意見を要約するという活動は、他人の意見を傾聴しようとする態度を醸成することにつながった。論点を整理し簡潔に説明する力は、本格的なディベート活動における基礎技能となるため。こうした相手の意見に耳を傾け簡潔に意見をまとめる機会を設定することが重要であると考えられる。

(2) ロジック・チャート

記述量は少なかったものの、生徒が自分の意見を論理的に整理する様子が見られた。アンケートによると、半数以上の生徒が「AREA Framework に当てはめて英作文をすることで論理的に自分の意見を書く力が伸びた」と感じていた。また「自分の意見に足りない部分を友人から指摘してもらえた」、「友人から新たな考え方や表現方法を学んだ」という回答も得られた。自分の意見や考えを可視化し、それらを生徒相互で検討し合うことでテーマに関する複数の視点と新たな表現方法に気付かせることができた。

しかし、限られた時間で自分の意見を記述しきれなかった生徒も見受けられた。ミニ・ディベートで交わされた意見を整理する時間を踏まえると、この活動にはさらに時間が必要であった。書く活動にも即興性を求めたが、生徒の思考を深めるには十分な時間を確保するべきであった。「自分の意見を即興で表現することは難しい」というアンケートの記述から、こうした即興で意見を陳述する活動は継続的に授業で行い、振り返りの機会を十分に確保する必要がある。言語活動において、表現できるという実感を繰り返しもたせることで、自らの意見を論理的・批判的に表現できる生徒を育成できると考える。

Logic Chart [Affirmative Side]

Class _____ Number _____ Name _____

TOPIC All national universities in Japan should provide their education for free.

Affirmative Opinion

AREA	Ideas and Opinions	Questions and Notes
A (Assertion)	agree with the topic	
R (Reason)	Because the money which we need to enter universities is too expensive.	費用が 高いから？
E (Examples)	There are some children who can't pay the money for university. If someone has many children, it is too hard to pay for education.	お金がない 子供が多いから
A (Assertion)	So, I agree _____	

Notes (新たな表現やアイデアなどを記録しよう)

Your Idea

I agree that all national universities in Japan should provide their education for free.

Because the money which we need to enter universities is too expensive. There are some children who can't pay the money for universities. If someone has four children, over ten millions yen is needed. In addition, I think it influences birth rate.

Therefore all national universities in Japan should provide their education for free.